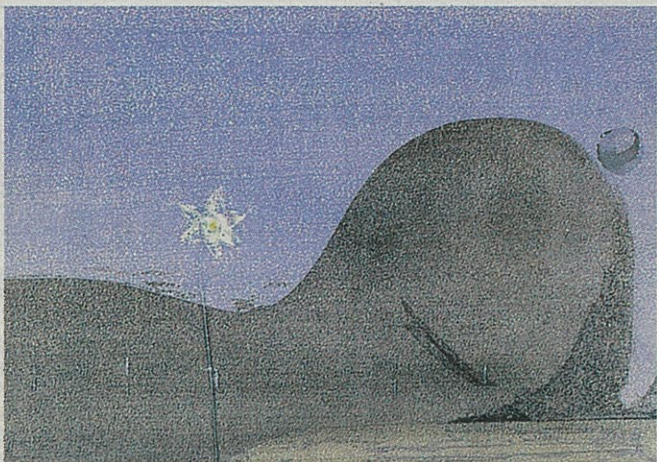


〈名画の扉〉

大川美術館特集展示から

そこにあるのは、静かな、静かな眠りです。横たわる人影の口元には、かすかに笑みが浮かんでいるようです。その傍らには、寄り添うように一輪の花が咲いています。

清宮質文は、木版画を中心に、油絵やカラース絵、モノタイプを制作した画家です。南天子画廊を創業した青木一夫氏の依頼を受け個展を開催した後、同画廊を新作発表の場としていました。40歳という若さで亡くなった青木氏の葬儀の日、青木家の庭でスイセンをな



「眠り」

1966年、木版・和紙
19・8センチ×27・8センチ
(松本望・千代夫妻遺族寄贈)

清宮質文 (1917～91年)

(池田)